六郷満山と観光振興

国東半島有数の観光資源でもある六郷満山文化。六郷満山寺院を中心に、交通事業者や宿泊業者、飲食業者など、六郷満山の霊場巡りを観光振興に活用すべく関係者が集まって平成26年に組織された団体が「宇佐国東半島を巡る会」(以下、巡る会)です。巡る会は六郷満山開山1300年に関連した誘客キャンペーン事業に実行委員会とともに取り組み、大きな成果を収めました。今回、巡る会の事務局長である秋吉文暢さん(文殊仙寺副住職)に、六郷満山と観光振興についてお聞きしました。

宇佐国東半島を巡る会 事務局長
秋吉文暢さん(文殊仙寺副住職)

―開山1300年をどのように総括していますか。

実行委員会と共に3年間にわたって観光誘客事業に取り組みました。緊密に連携し、十分な協議を重ねて各事業を実施してきた結果、総じて成功に終わったと考えています。六郷満山寺院側では、主に私たち若手世代が中心となって動きましたが、これによって若手間の交流が進みました。これまでは各寺院がそれぞれ観光誘致に取り組んでいるような状況でしたが、今回の開山1300年を契機に相互に連携がとれるようになり、国東半島六郷満山霊場という広域単位で情報発信や観光客の受入ができるようになりました。「点の観光」から「面の観光」になったことが最大の収穫であると感じています。

―観光誘客において、どのような取り組みをされましたか。

鬼朱印や不動朱印といった六郷満山霊場独自の限定朱印や、非公開文化財の公開イベント、峯入体験ツアーなど様々な取り組みを行いました。特に鬼朱印・不動朱印めぐりには多くの参拝者にお越しいただき、嬉しく思っています。これらの取り組みは「なるべく多くの寺院が参加できるような企画とする」ことを念頭に置いて実施したので、特定の寺院だけではなく六郷満山寺院全体に参拝者が訪れたという点で効果的だったと思っています。この3年間で、六郷満山全体として観光誘客を行う態勢をつくることができました。

―インバウンド対策についてどのようにお考えですか。

開山1300年の誘客事業を通じて、外国人旅行客の受入態勢整備が大きな課題であると実感しました。巡る会は今年度より多言語翻訳システムを提供する事業者と提携し、多言語での六郷満山文化の解説や、外国人からの質問に受け答えできるサービスを開始します。まずは言語の壁を取り払うことが先決であると考えました。

また、インバウンド誘客における考え方として、安易に訪日外国人旅行客を受け入れようとは考えていません。六郷満山文化は、外国人にも通用する観光資源であると自負しています。この国東半島の自然や伝統文化に興味と理解のある方にゆっくりと過ごしていただき、ありのままの国東の素晴らしさを感じていただきたい。海外の質の高い旅行者が満足できる観光地を目指せば、結果として国内需要の掘り起しにもつながります。

大人気となった六郷満山の「ご朱印」。
平成30年(2018年)は寺院全体で17万枚に
達しました(写真:興導寺)

今回築けた寺院間の結集を活かして国東半島六郷満山の「面としての観光」を展開していくことが大切です

―1400年に向けての展望をお聞かせください。

開山1300年の誘客キャンペーンを通じて、行政と民間が緊密に協力して様々な取り組みができたこと、六郷満山寺院においても「六郷満山霊場」として一体となって活動できたことは、今後の大きな財産です。実行委員会解散後も、国東市を中心に「国東半島宇佐地域・六郷満山誘客推進協議会」が後継組織として発足していますので、開山1300年で高まりを見せている「国東半島への観光の気運」を継続させるため、引き続き連携をしていきたいと思います。

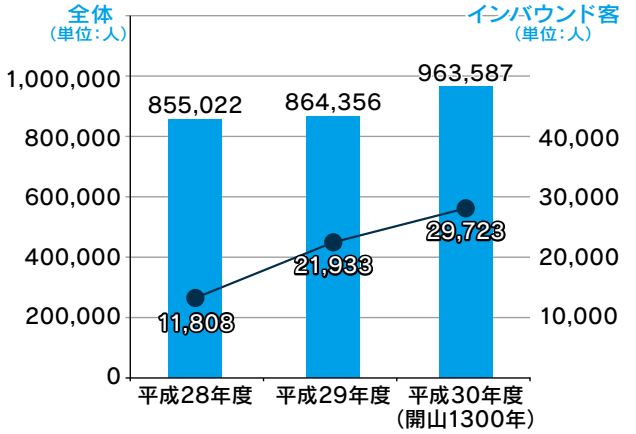
六郷満山には長い歴史と伝統がありますので、守るべき部分はしっかりと守りながら、環境の変化に順応すべく挑戦をすることも忘れてはならないと思っています。そして、各寺院が個々の役割を果たしながらも、今回築けた寺院間の結集を活かして、国東半島六郷満山の「面としての観光」を展開していくことが大切です。開山1400年に向けて、六郷満山観光に磨きをかけ、国東の自然や人々の生活と調和した持続可能な観光地づくりに取り組みたいと考えています。

六郷満山寺院ライトアップでは、来場者に温かなおもてなしが行われました（写真：文殊仙寺）

過去最高の観光客が訪れた国東市

開山1300年のレガシー（遺産）をいかに今後に活用していくかが問われています

国東市観光入込客数（国東市観光課調べ）



実行委員会を中心に官民を挙げた取り組みの結果、国東市の観光入込客数は平成28年度から平成30年度にかけて約11万人増加し、インバウンド（外国人旅行客）客数も約2万人増加しました。実行委員会事業の最終年度で、六郷満山開山1300年本祭の年である平成30年度の観光入込客数963,587人、インバウンド客数29,723人は、国東市観光課が調査を始めた平成22年度以降（インバウンド客数は平成28年度以降）で過去最高の人数となりました。

国東の観光振興に大きく寄与した六郷満山開山1300年の誘客キャンペーン。日本国内だけでなく海外にも名が知れ渡り、多くの観光客が国東市に訪れました。平成30年には「鬼の文化」が日本遺産に認定され、文殊耶馬が国の名勝に指定されるなど、六郷満山にはさらなる追い風も吹いています。この盛り上がりを一過性のものとすることなく、今回の一大キャンペーンによって得られたレガシー（遺産）をいかに今後に活用していくかが問われています。